

まちだ未来の会 第18回 学習会

鶴川図書館が危ない！

—お年寄りや子どもたちにとって
駅前図書館は遠い—



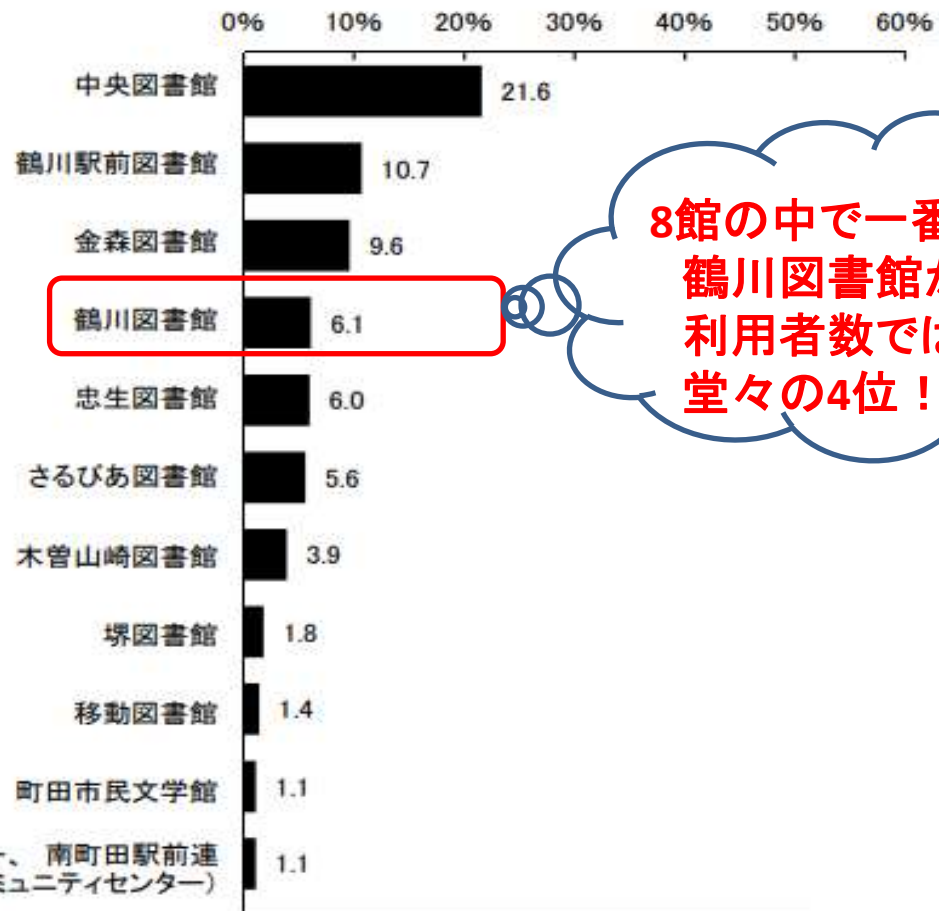
色々なデータから
鶴川図書館を
分析してみましよう

2017年度生涯学習に関する市民意識調査(5. 図書館についての調査)から

問15 あなたは、この1年間、町田市立図書館のサービスをどこで利用しましたか。
(〇はいくつでも)

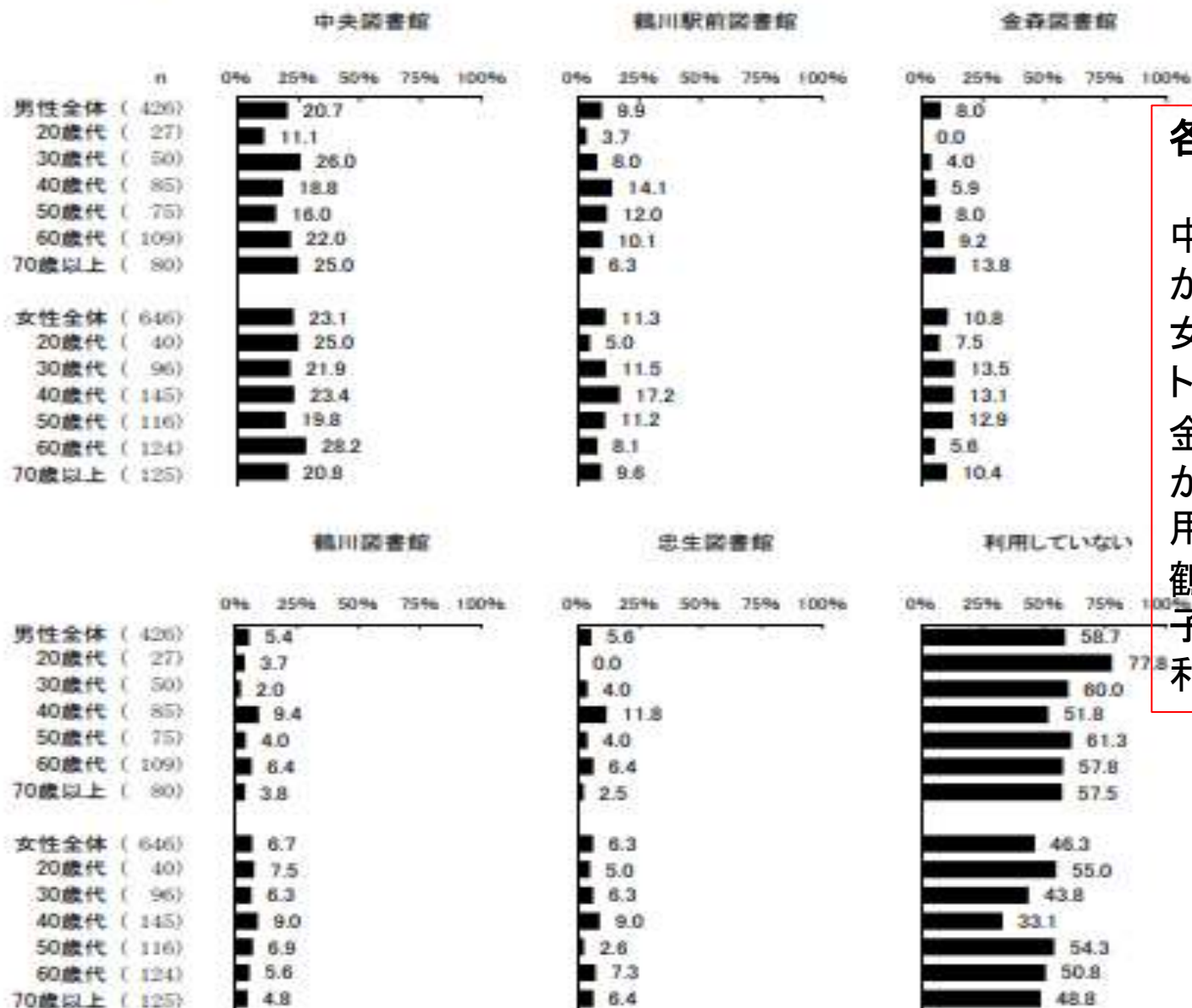
図 町田市立図書館のサービスを利用した施設

n=1,106



8館の中で一番小さい
鶴川図書館が
利用者数では
堂々の4位!

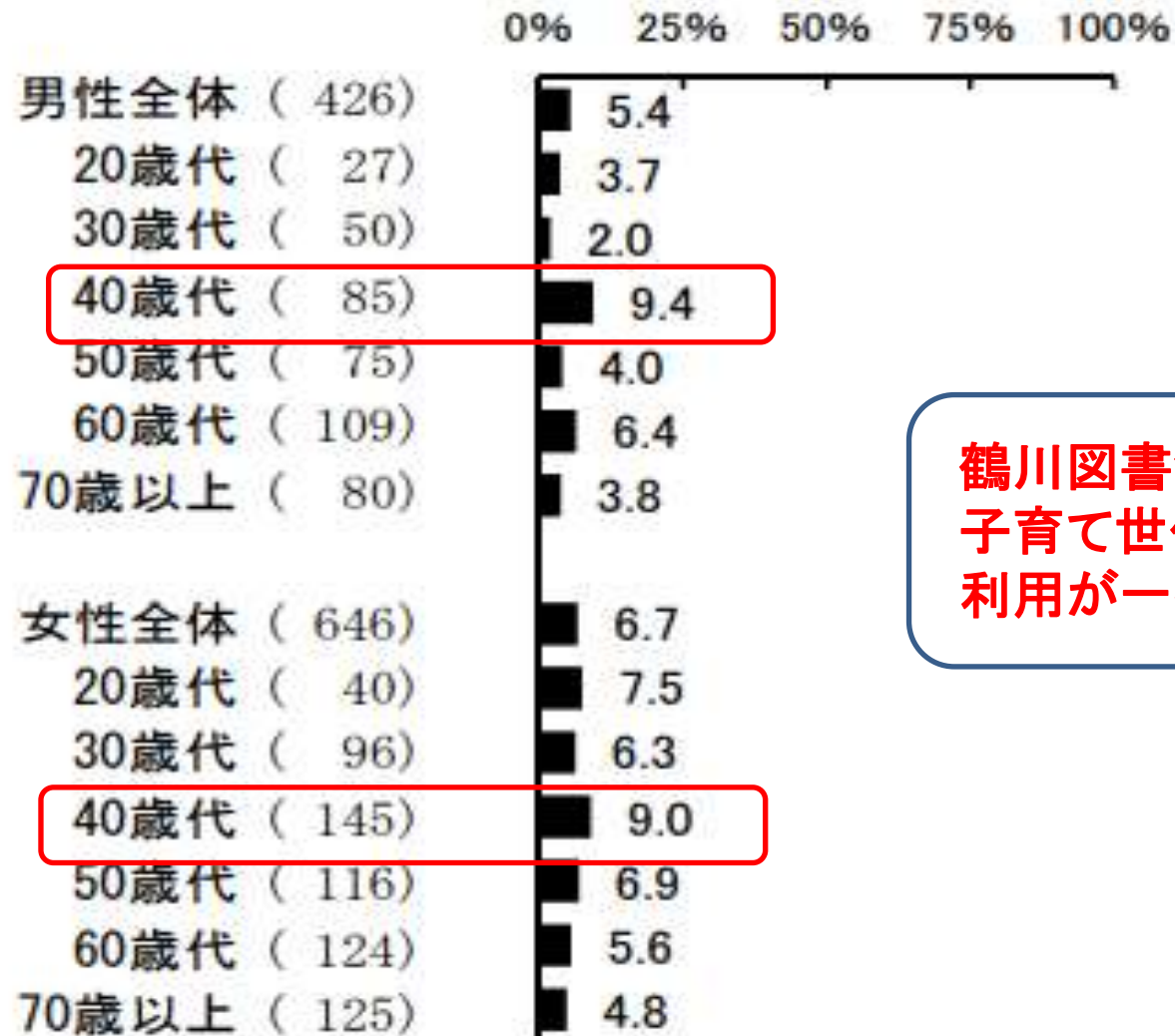
図 町田市立図書館のサービスを利用した施設(性・年代別、上位6項目)



各館の利用者の年代傾向

中央館では男性は30代がトップで次いで70代。女性では60代の利用がトップ、次いで20代。金森では、男性は年齢が高くなるにつれて利用者が増える。鶴川、鶴駅、忠生では、子育て世代の40代の利用が男女ともに多い。

図 町田市立図書館のサービスを利用した施設(性・年代別)から鶴川図書館について



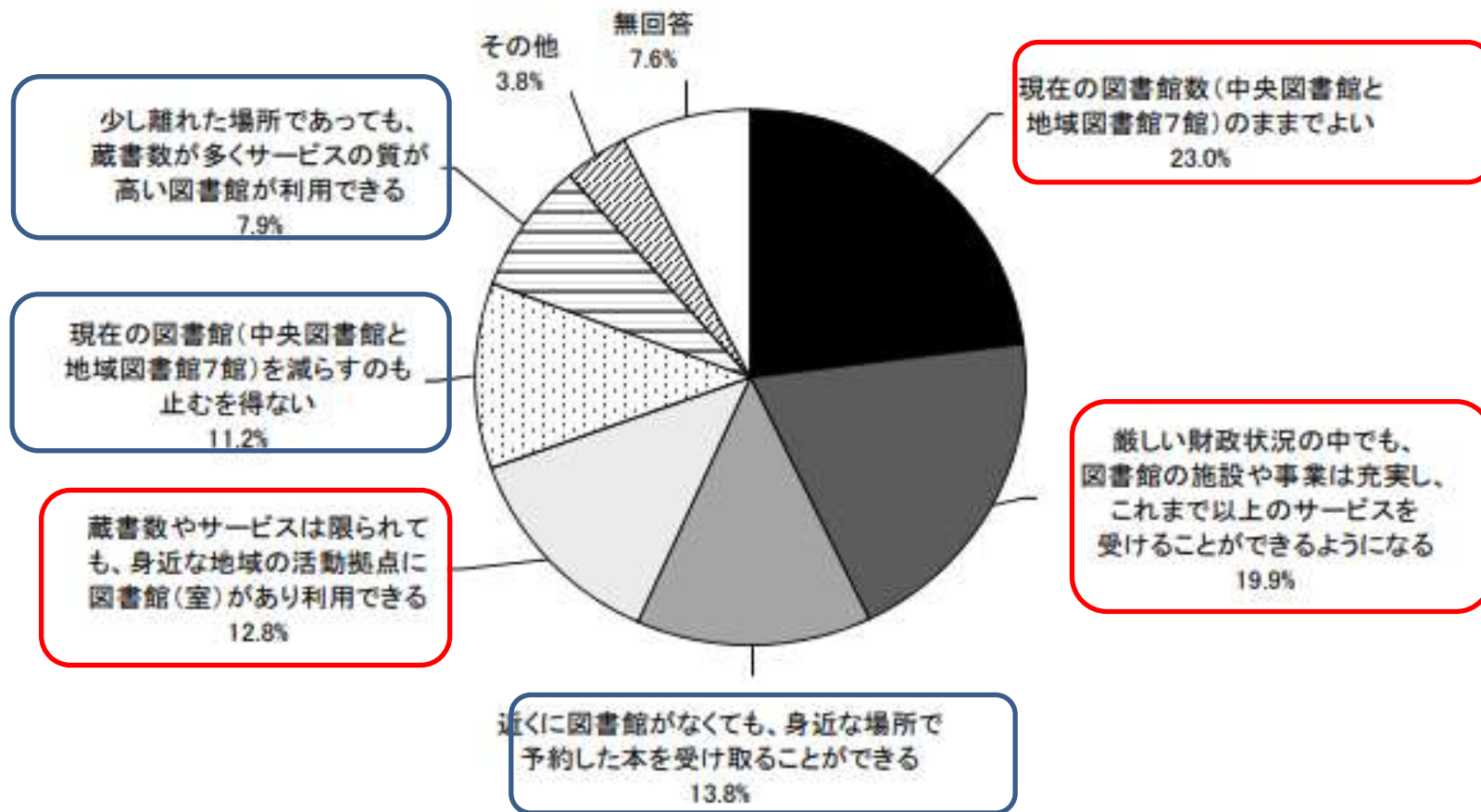
鶴川図書館は
子育て世代の
利用が一番多い

問17 今後、町田市が図書館の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

(○は1つ)

図 図書館の見直しで最も重要と考えること

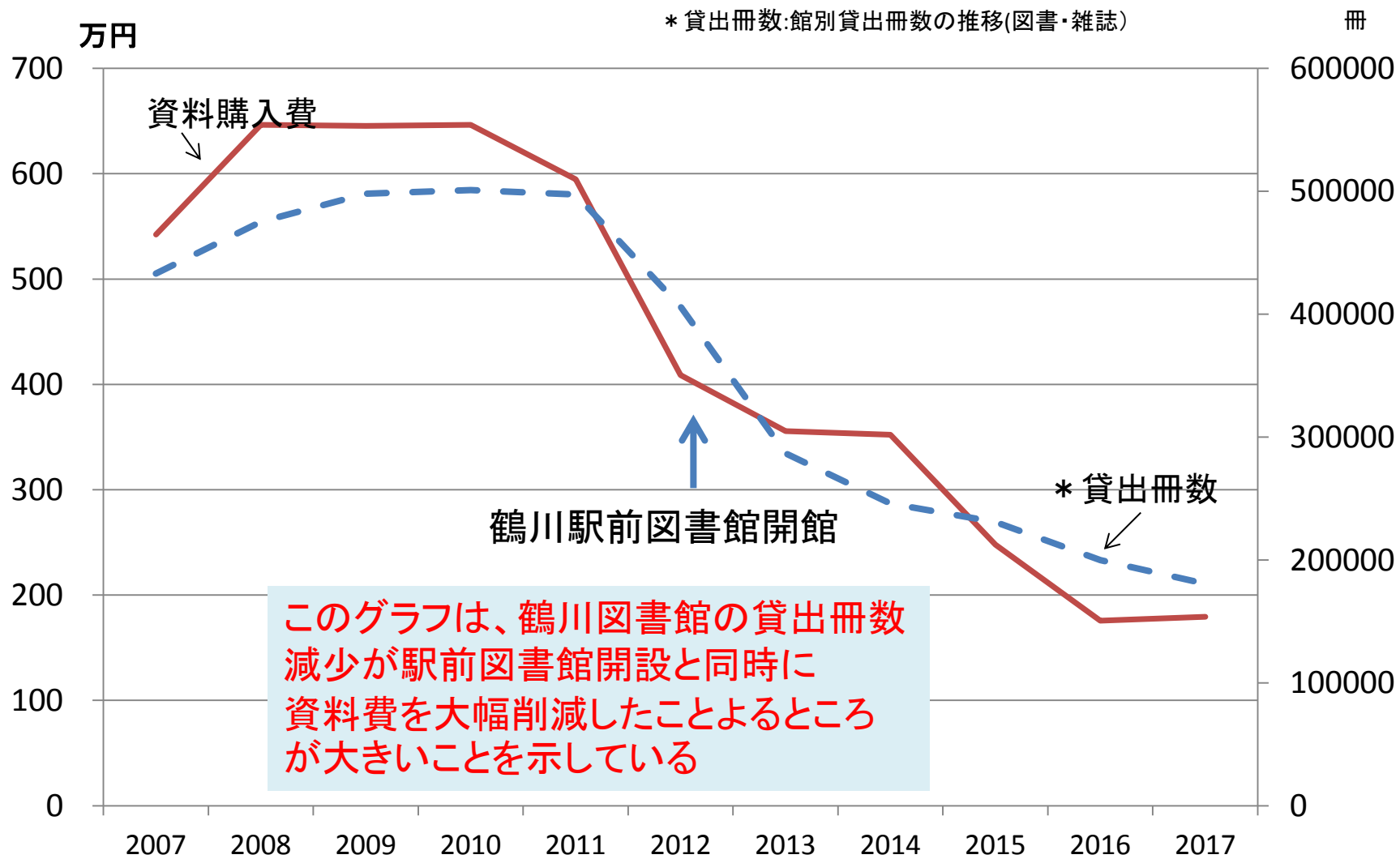
n=1,106



再編やむなし の合計 = 32.9%

現状或いは充実を望む の合計 = 55.7%

資料購入費と貸出冊数の推移 (年報「町田の図書館」より)



鶴川団地と周辺地区再生方針

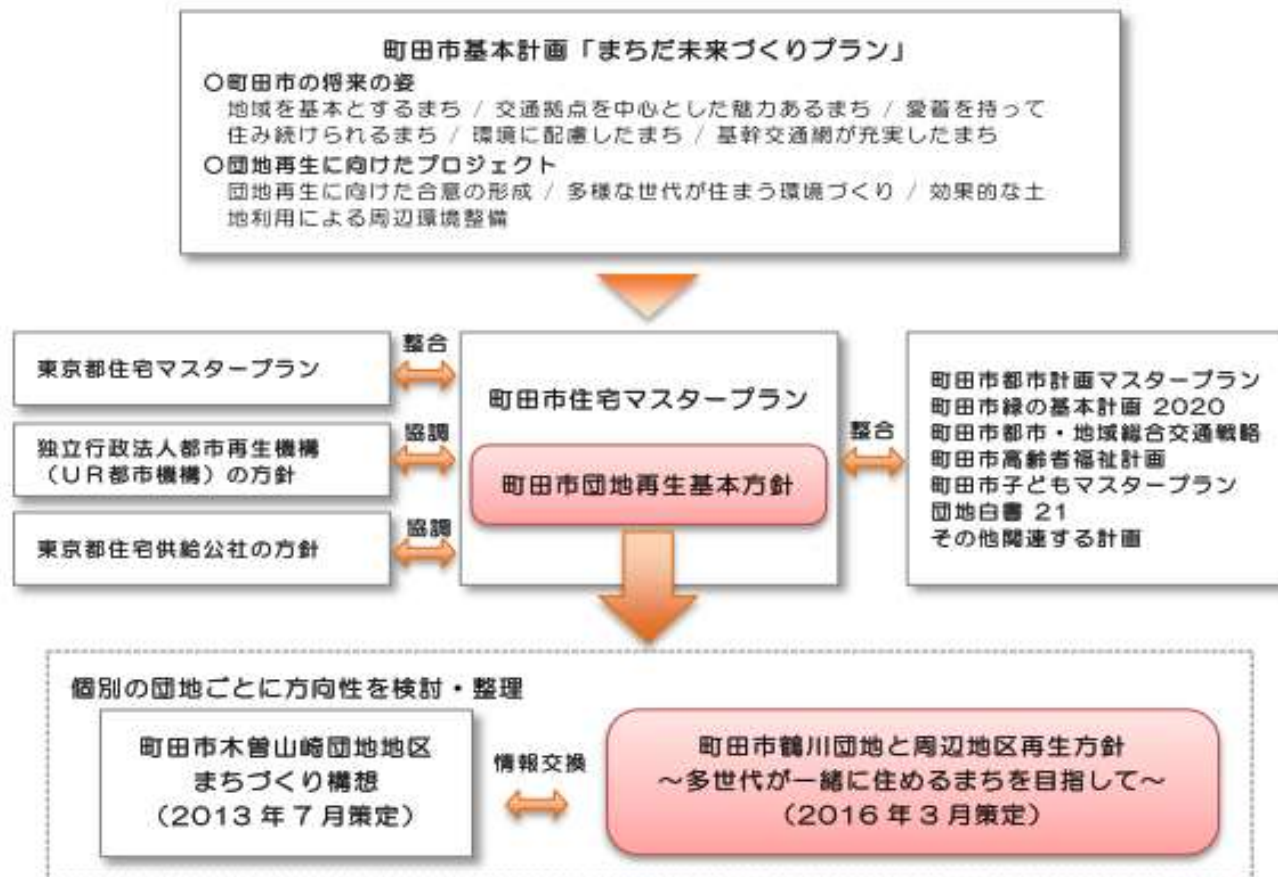
～多世代が一緒に住めるまちを目指して～

(2013年3月に作成)
(抜粋)

2. 再生方針の位置付け

本再生方針は、「町田市団地再生基本方針(2013年3月策定)」に基づき、鶴川団地と周辺地区における活性化に向けた方向性を整理したものです。

本再生方針と他の計画の関連は以下の通りです。



3. 再生方針の検討対象区域

再生方針は、鶴川団地と周辺地区を対象として定めるものであり、具体的には下図の赤線で示すUR賃貸住宅鶴川団地（五丁目）、鶴川二丁目団地、鶴川六丁目団地および戸建て住宅中心の鶴川三丁目・五丁目地区、センター名店街、セントラル商店街を対象として検討を行いました。



出典：町田市団地再生基本方針（2013年3月策定）

資料編 団地カルテ4 鶴川団地より抜粋

6. まちづくりの目標・方向性とアクション

(1) まちづくりの目標・方向性

鶴川団地と周辺地区において、さまざまな世代の人たちが、コミュニティを育み、いきいきと過ごすことができるまちを実現させるために、『多世代が一緒に住めるまち』をまちづくりの目標として掲げることとしました。

また、これまでの地域検討会での取組を検証し、鶴川団地と周辺地区の現状と課題を踏まえ、目標達成に向けて今後取り組むべきアクションとして3つの柱にまとめました。



鶴川図書館が
商店会の中に
存続することは
アクションの3本
柱(方向性)と完
全に一致する

アクションプランの3本の柱

★鶴川団地と周辺地区全体での魅力づくり

★安心して子育てができる

★高齢者が楽しく暮らせる に沿って、

＜多世代が一緒に住めるまち＞を実現するため、現在、鶴川団地、商店会はURと話し合いを続けています。

鶴川地域住民・商店会は、鶴川図書館がこの三本の柱に欠かせない存在であると考え、存続を求めています。